

## Greeting

今日は、テンピースプラス・ワンライン第7回コンサートにお越しいただき、誠にありがとうございます。

2006年に誕生したワンライン。「楽しければ何でもやってみる」というスタンスで、難曲にも果敢に挑戦し、テンピースプラスというまだ数少ない編成のアンサンブルを普及すべく、日々練習を重ねております。

さて、バレンタインデーである本日のプログラムのテーマは「LOVE」。チョコレートの代わりにご用意した甘いメロディの数々を、たっぷりとお楽しみください。

Ten Piece Brass ONELINE 代表 高本 弘幸

## Sound Adviser



小泉 貴久 (サウンドアドバイザー)  
TAKAHISA KOIZUMI \*Sound Adviser

東京都出身。10歳よりトランペットを始める。  
東京音楽大学トランペット科卒業。

トランペットを北村源三、丸山研也、林昭世の各氏に師事。  
1989年、韓国「コリアン・シンフォニー・オーケストラ」に入団。  
帰国後、オーケストラ、ミュージカル、吹奏楽、アンサンブルなどで演奏活動を展開。

2009年、Vivid Brass Tokyo のソリストとしてフィリップ・スパーク作曲の「Concerto Grosso」を作曲家自身の指揮で演奏し、好評を得る。

作曲、編曲活動も行っており様々な編成の作品がある中、昨年テンピースプラス・ワンラインのために作曲した「無限に煌めく星たちへの讃歌」を全管バンドのフル編成に書き直して、今年春にディアーズ出版より楽譜とCDが発売される予定。

現在、Vivid Brass Tokyo ソロネット奏者。  
アレクテ室内管弦楽団首席奏者。  
石川巖トランペットソサエティ専属アレンジャー。

## Next Concert

2017年も2月頃にコンサートを行う予定です。  
詳細が決まり次第、ホームページなどでお知らせいたします。



*Watashi ha Hana yori Choco ga suki.*

## Special Thanks

ステージマネージャー  
月村一裕様  
KAZUMI TSUKIMURA  
Stage Manager

照明  
鈴木一啓様  
KICHIYO SUZUKI  
Lighting

受付  
荒井明日香様  
ASUKA ARAI  
Reception

受付  
増田陽子様  
YOKO MASUDA  
Reception

映像  
山崎晶弘様  
AKIHIRO YAMAZAKI  
Movie

写真  
山口敦様  
ATSUSHI YAMAGUCHI  
Photo

Website <http://oneline.tokyo/>

Facebook <https://www.facebook.com/tenpiece.brass.oneline/>

Ten Piece Brass ONELINE \*7th Concert

Ten Piece Brass

ONELINE \*7th Concert

テンピースプラス ワンライン 第7回コンサート

2016年  
2/14 日

13:30開場  
14:00開演

すみだトリフォニーホール  
(小ホール)

# Program

「ラ・ペリ」のファンファーレ (ポール・デュカス / 高木 弘幸 編曲)

*Fanfare from La Péri* by Paul Dukas, arr. Hiroyuki Takagi

ポール・デュカスが1912年に完成させたバレエ音楽。デュカスが生前に出版した最後の作品であり、また最後の管弦楽曲でもある。数年後には前奏用ファンファーレを追加作曲し、バレエ音楽としてだけでなく、演奏会用の楽曲としても完成度を高めた。

愛の挨拶 (エドワード・エルガー / 高木 弘幸 編曲)

*Salut d'amour* by Edward Elgar, arr. Hiroyuki Takagi

イギリスの作曲家エドワード・エルガーが作曲した楽曲。1888年にキャロライン・アリス・ロバーツとの婚約記念に贈った曲で、エルガーの作品中では初期のものである。エルガーの作品の中では行進曲『威風堂々』第1番や第4番に並んで有名な部類に入る。優美な曲想が幅広い支持を集めている。

ビー・マイ・ラブ (ニコラス・ブロドツキ & サミー・カーン / レイ・ファー 編曲)

*Be My Love* by Nicholas Brodsky & Sammy Cahn, arr. Ray Farr

ユーフォニアム・ソロ: 本多沙織 Euphonium Solo by Sachi Honda

伝説的テナー歌手マリオ・ランツァのデビュー映画『The Toast of New Orleans(オルレアン的美女/1950年)』の挿入歌。キャサリン・グレイスンとマリオ・ランツァの二人によって歌われるテーマ曲「ビー・マイ・ラブ」は、1951年度アカデミー賞のオリジナル歌曲部門にノミネートされ、その後多くの歌手、オペラ歌手(テノール)によって歌われているスタンダード・ナンバーである。

組曲「子供の遊び」(ジョルジュ・ビゼー / ハワード・スネル 編曲)

*Suite from Children's Games* by Georges Bizet, arr. Howard Snell

ジョルジュ・ビゼーが作曲したピアノ連弾のための曲集、および管弦楽曲である。管弦楽版の題名は組曲「子供の遊び」。ピアノ連弾では全12曲あったが、今回は管弦楽版をベースにした以下の6曲を演奏する。

- I - The Top (こま)
- II - The Doll (お人形)
- III - The Rocking Horses (振り木馬)
- IV - Little Husband, Little Wife (小さな旦那様、小さな奥様)
- V - Trumpet & Drum (ラッパと太鼓)
- VI - The Ball (舞踏会)

～休憩(15分間)～

愛はすべてを変える (アンドリュー・ロイド・ウェバー / 高木 理恵 編曲)

*Love Changes Everything* by Andrew Lloyd Webber, arr. Rie Takagi

原作はフランスの作家ディピッド・ガーネットによる中編小説「アスペクト・オブ・ラブ」。3世代5人の男女の恋模様を17年の月日を遡って描いたもので、この物語に触発されたアンドリュー・ロイド・ウェバーは10年にも及ぶ準備期間を経て、1989年にミュージカル化を果たした。

悲しみはベルの音とともに (バート・バカラック / 高木 弘幸 編曲)

*One Less Bell To Answer* by Burt Bacharach, arr. Hiroyuki Takagi

ホルネット&ユーフォニアム・デュエット: 高木弘幸・本多沙織 Cornet & Euphonium Duet by Hiroyuki Takagi & Sachi Honda

全米で一大旋風を巻き起こしたテレビドラマ「glee(グリー)」。シーズン1の第16話で流れたこの曲はバート・バカラックが残した作品。恋人と別れた女性の悲しみが、「あなたが訪ねて来ないので、ドアのベルの音が1つ減ったわ…」という歌詞で表現される。本日のデュエットでは、ワンライインアレンジの情景をお楽しみいただきたい。

誰でも口笛を! (ステファン・ソンドハイム / 高木 弘幸 編曲)

*Anyone Can Whistle!* by Stephen Sondheim, arr. Hiroyuki Takagi

1964年にブロードウェイで初演されたミュージカル・コメディ。たった9回で公開打ち切りになった逸話がある。曲の全体を通して、グリッサンドを効かせた軽妙なトロンボーンメロディが、口笛を連想させる。

ブライダルソング (ハワード・スネル)

*Bridal Song* by Howard Snell

ハワード・スネルが彼の友人アン・マーフィーの結婚式のために作曲した曲。ゆったりとしたフリーゲルホルンのメロディで始まり、各楽器に受け継がれていくその様は、なめらかな織物のよう柔らかさと、温かみをあわせ持つ。

組曲「ア・ラ・カルト」(ゴフ・リチャーズ)

*À La Carte* by Goff Richards

作曲者のゴフ・リチャーズが世界の有名料理からインスパイアされて作曲した組曲。曲にはその国の国歌や名曲、音楽のスタイルが盛り込まれ、それぞれにつけられた速度指示からも作曲者の遊び心うかがえる。

- I - Coq au Vin - Allegro gallico (鶏肉の赤ワイン煮)
- II - Paella Valenciana - Andante risottomarino (バレンシア風パエリア)
- III - Hungarian Goulash! - Presto zingaresco (ハンガリーのシチュー)
- IV - Sushi - Andante nippico-tipico (寿司)
- V - Lasagne Verdi - Moderato al dente (ほうれん草のラザニア)

# Members



東 正和 (ソプラノホルネット)  
MASAKAZU AZUMA \*Soprano Cornet

使用楽器: マウスピース  
AZUMA Masakazu AD 9911-10  
with DENIS WICK Heritage 2



高木 弘幸 (ホルネット)  
HIROYUKI TAKAGI \*Cornet

使用楽器: マウスピース  
BESSON Sovereign BE328  
with DENIS WICK HW3



川ノ上 梓 (ホルネット)  
AZUSA KAWANOUE \*Cornet

使用楽器: マウスピース  
YAMAHA YCR3320  
with YAMAHA 14E



木内 太一 (フリューゲルホルン)  
TACHI KICHI \*Flugelhorn

使用楽器  
YAMAHA FPH-63160  
with DENIS WICK HTL



竹ノ内 晋 (チナーホーン)  
SHIN TANOUCHI \*Tenor Horn

使用楽器: マウスピース  
BESSON Prestige BE200  
with DENIS WICK Heritage 4



藤井 恵 (バリトン)  
MEGUMI FUJI \*Baritone

使用楽器: マウスピース  
BESSON Sovereign BE351  
with F&C 60



本多 沙織 (ユーフォニアム)  
SACHI HONDA \*Euphonium

使用楽器: マウスピース  
Willow T2200MS  
with GAREGO S



庄司 考志 (バサ)  
TAKASHI SHOJI \*Bass

使用楽器: マウスピース  
Willow J200 T24E  
with T2i WH-62 \*Water Meters Model



岩崎 稔 (バス・トロンボーン)  
MINORU IWASAKI \*Bass Trombone

使用楽器: マウスピース  
Edward Bickel EB-20W  
with GAREGO B. SOECO



藤井 義隆 (トロンボーン)  
YOSHITAKA FUJII \*Trombone

使用楽器: マウスピース  
Vicent Bach 4240  
with KNOX K-20124



悪原 至 (パーカッション)  
ITARU AKIHARA \*Percussion



安東 友樹子 (パーカッション)  
YUKIYO ANDOU \*Percussion